

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和7年2月17日
札幌市立東栄中学校

1 学校教育目標

ともに 豊かに たくましく
知性と感性を磨き合う生徒
心と身体を鍛え合う生徒

2 本年度の学校経営方針

スローガン「子ども一人一人が大切にされていると実感できる学校に」

1 ともに 開かれた学校の創造

- (1) 学校評価を生かし、社会に開かれた教育課程に向けた工夫・改善を推進する。
- (2) 東栄中学校区小学校（パートナー校）との9年間の小中一貫した学びを創造する。
- (3) 学校・保護者・地域・関係機関等が連携し、生徒の健全な成長を支える。

2 豊かに 豊かな人間性の育み

- (1) 信頼と連携を基に規範意識を育て、安心して信頼できる学校生活を築く。
- (2) 行事や体験的な学びにより、豊かな人間性や他者と関わる社会性を身に付ける。
- (3) 全ての教育活動を通じて道徳教育を推進し、多様性を認め合い自己と他者を大切に
する心を育む。

3 たくましく 学ぶ力の育み

- (1) 主体的で協働的な授業で学ぶ意欲を育てる。
- (2) 生徒の多様な実態に応じた支援方法や体制の工夫・改善を行う。
- (3) 指導と評価の一体化をより進め、客観性、公平性、信頼性を高める評価の充実を図る。
- (4) 学びの基礎となる心身の健康と体づくりを通じて、学ぶ意欲を育てる。

3 本年度の学校教育の重点

札幌市学校教育の重点の基盤：人間尊重の教育

1 学ぶ力の育成 ※「学ぶ力」育成プログラムに基づく実践

- (1) 自ら課題を見付け、学び、問題を解決する資質・能力の育成
 - ・主体的な学びを進め、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る授業の工夫
 - ・AARサイクル（「見通し」「行動」「振り返り」）を取り入れた授業づくり
 - ・9年間を見通した系統性・連続性のある課題探究的な学習の充実
- (2) さっぽろっ子自治的な活動の推進
 - ・一人一人の「子どもの声を聴き」自治的な活動を支援する。
 - ・9年間の学びの連続性を意識した学習習慣の確立
- (3) ICTを活用し、教科横断的な学びの推進
 - ・ICTの活用、少人数指導・習熟度別指導などにより、多様な学びの場の充実
 - ・規範意識の醸成とネットモラル教育（非行防止教室等）の充実

2 豊かな心の育成 ※すべての活動を通じた道徳教育に基づく実践

- (1) 他者を思いやる心、生命を尊重する心、自然や美しいものに感動する心の育成
※人間尊重の教育を重視した取組（含：いじめ防止の取組）
 - ・「みんな違う」を原点に多様性を認め合い、いじめのない学年・学級づくり
 - ・道徳科を中心に、考え、議論する道徳の実現で、主体的に判断できる生徒の育成
 - ・一人一人の子ども理解に努め、自他の命を大切にする指導（命の授業等）の徹底
- (2) 伝統の継承と発展
 - ・学級活動や学校行事を通して、互いを認め合い、規律の中にも温かみのある集団の育成
 - ・上級生から下級生、先輩から後輩へ伝統を繋ぐ生徒会活動等の充実

3 健やかな体の育成 ※「健やかな体」育成プログラムに基づく実践

- (1) 生涯を通じて運動に浸しむための基礎を培うとともに、積極的に心身の健康の保持増進を
図る資質・能力の育成（健康・体力の向上のための支援）
 - ・保健体育の授業を通じて、自ら進んで運動・スポーツに親しむ指導の充実

- ・運動部活動も含めた「仲間・時間・空間（三間）」の創出による運動機会の充実
 - ・生徒が自ら健康づくりについて考え、実践する取組の充実
- (2) 自他の健康に関する意識の向上
- ・各教科の内容を関連付けた心身の健康教育の推進
 - ・栄養教諭と養護教諭が連携し食育及び健康指導（感染症やアレルギー対応等）の充実

4 子どもの発達への支援

- (1) 多様な生徒への教育的ニーズに応じたきめ細かな生徒支援
- ・教職員が率先して範を示し、挨拶・時間・礼儀など基本的な生活習慣の向上
 - ・校内学びの支援委員会（コーディネーション会議）によるきめ細やかな情報共有と対応
 - ・新たな不登校を生まないために魅力ある学校・学級づくりの推進
- (2) 個に応じた指導の充実
- ・相談支援パートナーなどと連携し、不登校生徒一人一人の状況に応じた支援の充実
 - ・教育相談等の活用で、困り感をもった生徒の迅速な把握とチームによる対応
 - ・性的マイノリティへの対応として、教職員の研修の充実
- (3) 特別支援教育の充実（インクルーシブ教育システムの構築に向けて）
- ・外部人材（SC、SSW等）、関係機関と連携し、生徒及び保護者への支援の充実
 - ・特別支援学級と通常学級との交流及び共同学習を推進し、多様な学びの場の充実
 - ・生徒個々の教育支援計画に基づいた切れ目のない支援の充実

5 信頼される学校の創造

- (1) 小中一貫した教育への取組
- ・東栄中学校区、小中一貫した教育ランドデザインに基づいた小中一貫した教育の推進
 - ・小中相互による児童生徒及び教職員の交流ときめ細やかな情報共有
 - ・家庭や地域が一体となり、9年間の子どもの育ちへの支援を充実
- (2) 社会に開かれた教育課程の取組
- ・各種おたより、HP、保護者メール（すぐーる）を利用した積極的な情報発信
 - ・学校評議員、学校評価の活用による教育課程の工夫・改善
 - ・地域の教育資源を積極的に活用した教育の推進（地域ボランティア等）
 - ※将来の社会的・職業的自立の基礎となるキャリア教育の推進
 - ・札幌らしい特色ある学校教育（「雪」「環境」「読書」）の推進
- (3) 安全・安心な学校づくり
- ・計画的な防災教育と避難訓練の実施 「助けられる人から助ける人へ」の意識
 - ・命を守るセーフティネットによる危機管理対応
- (4) 教職員の資質・能力の向上と心身の健康保持の両立で健全な学校運営
- ・自主的、主体的な校外における研修の参加を促進し、資質、能力の向上
 - ・教職員の健康保持、ストレス軽減のために働き方改革を推進し、時間外勤務の縮減
 - ・教職員の検診・ストレスチェックなどの活用促進で、働く意欲の増進

4 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学校生活全般	本校生徒は、安心して学校生活を送ることができている	A	・生徒・保護者の肯定的回答が約87%であった。今後も、不安を抱えている生徒・保護者への丁寧な対応に務める。	A	A
	本校では、家庭への連絡や情報提供をしっかりと行っている	A	・連絡アプリ「すぐーる」の家庭登録がほぼ100%達成し、家庭への連絡はより確実なものになっている。お便り文書の添付等、更なる有効活用を検討していく。ホームページでも学校の様子を発信し、充実させることができた。	A	A
	本校の教室や設備などは気持ちよく使える環境にある	A	・教職員、生徒の肯定的回答が向上している。教職員の多くが更に良い環境で学校生活を送りたいと願っている。引き続き、学校教育全体を通して環境美化に努めていく。	A	A
	先生方は、悩みなどの相談に丁寧に対応してくれる	A	・肯定的回答が上昇傾向である。日頃の対応や期末懇談、教育相談の時間確保に加え、働き方改革を推進し、日常的に生徒一人ひとりと向き合う時間を確保する。不登校生徒は多いが別室登校の体制は充実している。今後も心の居場所づくりを行っていく。	A	A
学校関係者評価委員会による意見	100%まであと13%。更に前進してほしい。 働き方改革の推進と生徒、保護者対応のための時間の確保とのバランスが大切だ と思う。日常的に生徒一人一人と向き合うことは今の時代の生徒には必要である。				

学習面	本校生徒は、意欲的に授業に取り組んでいる	B	・生徒の否定的回答が約4割であった。「分かる・できる・楽しい授業づくり」や「クロームブック等」のICT活用を通して、学習の支援を図る。 ・家庭との連携により学ぶ意欲の向上を目指す。	A	A
	本校生徒は、学校の課題や家庭学習に取り組んでいる。	B	・過年度と比較すると低い数値となった。「学習シート」を活用し、家庭学習で取り組むことを生徒自身が設定できる力を育成する。	A	A
	本校では、わかりやすい授業が行われている	A	・生徒・教職員の肯定的回答が8割を超えている。今後は、わかりやすい授業だけではなく、学びのコントローラーを生徒に持たせる授業の工夫・改善に努める。	A	A
学校関係者評価委員による意見	授業のわかりやすさと学習への自発性の乖離、自己へのあきらめ、目標の欠如があるように思います。新たな取組も模索（外部講師の講演など）しても良いと思います。 学びへの意欲を育むことが重要であり、幼稚園、認定こども園、小学校、中学校において、共通理解が大切だと思う。				
健康・安全・特活・部活	本校では、給食や保健指導を通して食と健康・安全などについて指導をおこなっている	A	・栄養教諭・養護教諭が中心となり、食物アレルギーの情報共有と事故の組織的な未然防止に努めている。 ・食育・健康指導とともに、給食だより・保健だより・ホームページを通じた情報発信に努める。	A	A
	本校生徒は、学校行事や生徒会活動などに積極的に参加している	A	・積極的に参加していると回答した生徒は年々増加している。学校祭の活動や委員会活動を新たに工夫して実施し、生徒の充実感を醸成できた。今後も持続可能な学校行事や生徒会活動のあり方を模索していく。	A	A
	本校の部活動は活動方針に基づいて適切に行われている	B	・生徒・保護者ともに「わからない」の回答が2割を超えていた。生徒・保護者に対して適切に周知した上で、部活動を運営するよう努める。	A	A
学校関係者評価委員による意見	部活動への価値観が定義されているのでしょうか。 学校行事や生徒会活動により、生徒の協働性が生まれ、かつ積極的に参加している生徒が多いことから、それらをより活発化していくことも必要であると思う。				
生活面	本校生徒は、誰にでも元気な挨拶ができる	B	・生徒の自己評価は高いが、保護者・教職員の評価は高くない。多方面からの啓発により、日常的に生徒自ら挨拶することを指導する。小中一貫した取組によりさらに向上させていきたい。	A	A
	本校生徒は、髪型や服装などのきまりを守っている	A	・生徒・保護者・教職員ともに、90%以上が守っていると回答された。校則の改編とともに引き続き家庭の協力を得ながら指導を推進していく。	A	A
	本校生徒は、時間を守る、社会や学校のルールを守るなどの習慣が身に付いている	A	・生徒・保護者・教職員の肯定的回答が9割近くに達した。校内での生活はよいといえるが、郊外からの苦情が数件あった。家庭と連携し、規範意識を高めた。	A	A
	本校生徒は、携帯電話やゲームを適切に使用している	C	・長時間での使用があることと、SNSの利用については、不適切な使用事例が散見される。事例に応じ生徒へ指導しているが、今後も引き続き、関係機関や保護者と連携し、ネットモラルの醸成に努める。	B	A
学校関係者評価委員による意見	大変な取組を継続的に行われていることをリスペクトします。 SNSの不適切な使用は事件に発展しかねないため、生徒への計画的で細やかな指導が必要だと考える。				
PTA	PTA行事や学校行事にできれば参加したいと思っている	B	・少しずつ保護者の来校の機会を増加させることができた。魅力ある行事づくりを目指すことと、持続可能なPTAの形態を模索していく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	PTA参加向上の施策をさらに推進してほしい。 学校職員と保護者とのコミュニケーションにより、良くなる可能性があると思う。				